

北九州沿岸における1967年夏季のムラサキダコの大 量漂着について

多部田, 修
九州大学農学部水産学教室

<https://doi.org/10.15017/23035>

出版情報：九州大学農学部学藝雑誌. 24 (3), pp.185-188, 1969-11. 九州大学農学部
バージョン：
権利関係：

北九州沿岸における1967年夏季のムラサキダコの 大量漂着について

多部田 修

On the mass stranding of octopus, *Tremoctopus violaceus*, upon the beach of northern Kyushu in the summer of 1967

Osame Tabeta*

ムラサキダコ *Tremoctopus violaceus* Delle Chaje は太平洋、大西洋の温、熱帯に広く分布する外洋性の八腕類で、わが国では房州以南で稀に採捕されるといわれていた。¹⁾ しかし、最近になって北九州、本州、北海道の日本海沿岸においてはこのタコがしばしば冬季に接岸し、海岸へ打上げられることがわかった。^{2,3)} これらの沿岸においてはハリセンボンなどの南方系動物が対馬暖流によつて夏季に日本海へ運搬され、冬季の季節風によつて海岸へ打上げられることが知られているが、⁴⁾ ムラサキダコもハリセンボンなどと同じ生態群に属すると考えられる。³⁾ ところで1967年の夏季に北九州沿岸においてムラサキダコの漂着がかなり広範囲にわたつて観察された。このようなムラサキダコの夏季における大量出現は、この沿岸における筆者の数年來の観察によれば、^{5,6)} まつたく異例なことであつた。この夏にはまたソデイカの漂着も観察されたので、本報では1967年夏季の北九州沿岸におけるムラサキダコの大量漂着を記録するとともに、この現象について若干の考察を行なつた。

観 察

本種についての聞き取りその他の調査は Fig. 1 に示した範囲で、また実際の観察は福岡市郊外の新宮、津屋崎などの海岸で行なつた。調査の期間は1967年7～9月で、この間数日ごとに上記の海岸で観察し、その際にはムラサキダコの各個体の全長を測定した。

観察結果を Table 1 に示す。福岡市郊外におけるこのタコの漂着は8月上旬～9月上旬に観察され、と

くに8月下旬に多かつた。聞き取り調査によれば唐津市沿岸においても8月下旬頃に漂着が顕著であつたといわれる。漂着の範囲は唐津市～津屋崎付近で、相の島、大島など付近の島にも漂着した。相の島の東側海岸においては8月27日に約300個体が漂着し、とくに注意をひいた。これらのムラサキダコはほとんどが生きたままで打上げられたようである。その全長組成からは25～35 cm および60 cm 以上の2群が認められ (Table 1)、冬季出現のタコ (Fig. 2) がほぼ60 cm 以上であるのに対して、このように小型群が多

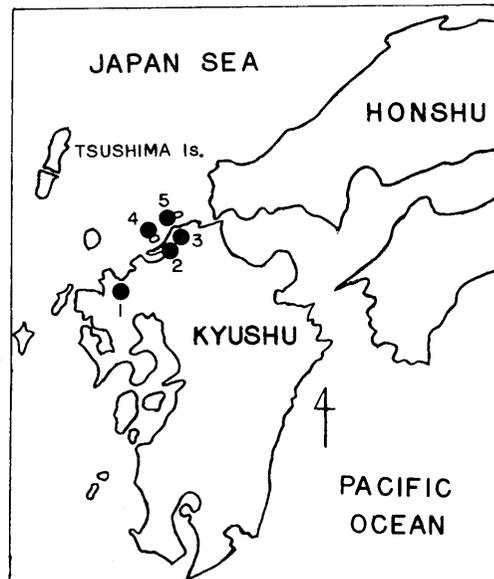


Fig. 1. Station location. The number shows the following station: 1 Karatsu, 2 Shingu, 3 Tsuyazaki, 4 Ainoshima and 5 Ôshima.

* 九州大学農学部水産学教室 (Fisheries Laboratory, Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan).

Table 1. Record of stranding of the octopus (No. 1—9) and the squid (No. 10) in northern Kyushu in the summer of 1967.

No.	Date '67	Station	No. of individual	TL*
1	Aug. 5	Tsuyazaki	1	25
2	Aug. 10	Shingu	1	60
3	Aug. 12	Tsuyazaki	1	30
4	Aug. 20	"	1	ca 30
5	Aug. 24	"	1	ca 35
6	Aug. 27	Ainoshima	ca 300	25—35
7	"	Shingu	ca 20	†
8	Sept. 1	"	2	30, 35
9	Sept. 10	"	1	35
10	Aug. 23	Tsuyazaki	2	40, 43‡

* Total length in cm.

† Not recorded.

‡ Mante length in cm.

いことは夏季出現群の特徴のようである。また、冬季出現の大型個体には卵塊を持つものが多いが、今回のものには卵塊は認められなかった。なお、福岡市郊外和白の海岸においては、1964年8月に全長約70cmのムラサキダコが漂着した。

ムラサキダコ以外にも津屋崎海岸ではソデイカ *Thysanoteuthis rhombus* Troscchel の漂着がみられた (Table 1)。ソデイカはこの沿岸では主として冬季に出現し、⁵⁾ このように8月にソデイカの漂着が観察されたことは、この海岸においては初めてであった (津屋崎漁業協同組合)。

考 察

筆者は福岡市郊外の新宮において、1964年の秋以来海岸へ打上げられる魚類その他の観察を行なっているが、この海岸における1965～1968年のムラサキダコの月別観察数を Table 2 に示した。この表でみるようにムラサキダコは1965～1966年、1966～1967年には11～1月に出現したが、大量漂着が観察された1967年夏季とこれに続くシーズン (1967～1968年) においては、8～1月に出現した。このようにこれまで秋～冬に観察されていたこのタコが、1967年にはどうして夏に大量に漂着したのであろうか。前述のようにムラサキダコは温、熱帯の外洋に広く分布する表層漂流動物 epipelagic animal であり、その遊泳力は極めて乏しい。したがって、今回の大量出現は調査地域先の海流と密接な関連があると考えられる。

北九州沿岸においてはそのはるか沖合を対馬暖流 (対馬暖流の東流) が北東方向へ流れ、その沿岸側に



Fig. 2. *Tremoctopus violaceus* Delle Chiaje, stranded upon the Shingu beach on November 11, 1966 (ca 70 cm in total length).

反流が形成され、さらに沿岸域には沿岸水が認められている。⁷⁾ この対馬暖流について水温、塩分を指標としてその勢力をみると、1967年の4月は平年に比して1°C前後低目で勢力は弱かったが、⁸⁾ 5月には1～2°C高くなり、⁹⁾ 6～7月は水温、塩分から判断するとその勢力は平年に比して強くなった。¹⁰⁾ そしてこのような傾向は8～9月にも認められた。^{11,12)} 一般に対

Table 2. Number of the observed octopus on Shingu beach in 1965—1968.

Month	'65—'66	'66—'67	'67—'68
Aug.			ca 21
Sept.			3
Oct.			2
Nov.	4	2	1
Dec.	1	7	16
Jan.	4	1	3
Total	9	10	ca 46

馬暖流の周年変化をみるとその勢力は8～10月に最大となるが、¹³⁾ 1967年においてはこの最盛時に暖流の勢力は例年に比して強かつたと判断される。したがってムラサキダコはこのように優勢な暖流によつて例年よりも大量に運搬されたのではなかろうか。すなわちこのタコが生息していた水塊が平年よりも大量にこの水域へ流入したために、これに伴つてムラサキダコも大量に運搬され、北九州沖合水域において何らかの原因によつて、たとえば1967年7月25～28日、8月22日にこの付近を襲つた低気圧などの影響によつて、対馬暖流主流帯→反流帯→沿岸水域へとおされ、最後に海岸へ漂着したのであろう。この大量漂着はムラサキダコの異常大量発生によるのではなく、運搬量が平年に比して多かつたことによるであろうということは次のような事実からも推定されよう。この夏にはムラサキダコだけでなく、このタコと同じ生態群に属するソデイカも漂着した (Table 1)。そして、この近海の山口県角島においては1967年11月にソデイカが大量に海岸へ打上げられ、このような大量打上げは数年来のことであつた。¹⁴⁾ したがって、ムラサキダコの打上げがこの冬季に平年よりも多かつただけでなく (Table 2, 11～1月に20個体を数えた)、ソデイカも多かつたわけである。* 以上のように1967年の夏季におけるムラサキダコの大量漂着は優勢な対馬暖流に

よつて平年より大量に運搬され、この海峡を通過中のものが暖流の主流から離れて接岸、漂着したものであり、この沿岸で例年冬季に観察される季節風およびこれに伴う寒冷化によつて生ずる魚類その他の打上げ現象⁵⁾とは異なる現象であると考えられる。

この研究にあたり終始ご指導いただき、原稿のご校閲を賜つた九州大学塚原博教授に深謝する。また、つきの方々からはこの調査中に種々のご援助を得た。九州大学農学部木村清朗、古市政市、具島健二、鏡忠勇の諸氏。記して謝意を表する。

文 献

- 1) 内田清之助ほか：日本動物図鑑，改訂増補 pp. 1898, 北隆館，東京 (1947).
- 2) 西村三郎：採と飼，**23**, 322～323 (1961).
- 3) S. Nishimura : Publ. Seto Mar. Biol. Lab., **16**, 71～83 (1968).
- 4) 西村三郎：日海洋会誌，**14**, 53～58, 59～63 (1958 a, b).
- 5) O. Tabeta and H. Tsukahara : Bul. Jap. Soc. Sci. Fish. **33**, 295～302 (1967).
- 6) O. Tabeta and H. Tsukahara : *Ibid.*, **35**, 43～49 (1969).
- 7) 水産庁：対馬暖流開発調査報告，第1輯，pp. 539 (1958).
- 8) 西海区水産研究所：漁海況予報，No. 78 (1967).
- 9) 同：同報，No. 82 (1967).
- 10) 同：漁場海況概報，No. 20 (1967).
- 11) 同：漁海況予報，No. 87 (1967).
- 12) 同：同報，No. 89 (1967).
- 13) 宮崎道夫・阿部茂雄：日海洋会誌，**16**, 59～68 (1960).
- 14) 毎日新聞 (西部版)，昭和42年11月23日 (朝刊).
- 15) S. Nishimura : Publ. Seto Mar. Biol. Lab., **14**, 327～349 (1966).

Summary

During the summer months of 1967 the author observed the mass stranding of an octopus, *Tremoctopus violaceus* Delle Chiaje, upon the beaches of northern Kyushu (Fig. 1 & Table 1). This epipelagic octopus was considered as the southern element such as balloonfish and some squids (*Thysanoteuthis rhombus*, etc.) which were transported in summer by the Tsushima Current into the Japan Sea and sometimes stranded upon the beach in winter season. On these beaches, so far, the octopus had been also seen in the cold season (Fig. 2 & Table 2). This paper deals with some notes on the unexpected mass appearance of the animals in that summer.

* Nishimura¹⁵⁾によればソデイカの対馬暖流による日本海への運搬量は年によつて異なり、最近では1959, 1964年はその量の多い年であつたといわれるが、1967年もこのような年であつたと思われる。この点については別に報告する予定である。

The octopus was stranded upon the beaches between Karatsu and Tsuyazaki from the early August to the early September (Fig. 1 & Table 1). The prominent phenomenon was seen in the end of August in the whole area, and at the beach of Ainoshima the stranded octopus were counted as many as some 300 individuals on 27th of the month. Most of them were young individuals less than 35 cm in total length (Table 1). This tendency was regarded as characteristics for the summer group in contrast to the winter one which were composed of adults more than 60 cm (Fig. 2). These mass strandings of the octopus were supposed to be caused by the larger transportation of the animals by the Current, which might be presumed to be due to the more forcible Current in this summer than in a common one. Another fact supporting this supposition was the first summer stranding ever recorded on Tsuyazaki of the squid, *Thysanoteuthis rhombus* Troschel, belonging to the same ecological group as the octopus (Table 1).